

(株)静岡茶市場 令和6年度取扱実績累計表

(本年 令和6年2月1日～令和6年5月31日)

(前年 令和5年2月1日～令和5年5月31日)

※ 荒茶・仕上 全茶種

		本年		前年		前 年 比	
		数 量 (kg)	平均単価 (円)	数 量 (kg)	平均単価 (円)	数 量 (%)	平均単価 (%)
県内茶	一 番 茶	659,292.3	1,444	653,139.4	1,643	100	87
	二 番 茶			1,527.5	813		
	三 番 茶						
	四 番 茶						
	冬 春 秋 番 茶						
	そ の 他	124,580.9	451	51,225.9	691	243	65
	小 計	783,873.2	1,287	705,892.8	1,572	111	81
県外茶	一 番 茶	441,558.2	1,321	441,458.5	1,435	100	92
	二 番 茶	86,719.0	714	70,073.0	849	123	84
	三 番 茶						
	四 番 茶						
	冬 春 秋 番 茶						
	そ の 他	5,384.6	893	2,553.6	2,178	210	41
	小 計	533,661.8	1,218	514,085.1	1,359	103	89
合 計	一 番 茶	1,100,850.5	1,395	1,094,597.9	1,559	100	89
	二 番 茶	86,719.0	714	71,600.5	848	121	84
	三 番 茶						
	四 番 茶						
	冬 春 秋 番 茶						
	そ の 他	129,965.5	469	53,779.5	761	241	61
	合 計	1,317,535.0	1,259	1,219,977.9	1,482	107	84

令和6年 一番茶総評

令和6年5月31日

本年の県内産の一番茶は、暖冬により1月から2月の気温が高く降水量も多かったことから生育は昨年並みか早くなると予想されましたが、3月中下旬の低温により生育が抑えられました。その後の生育は順調となり、昨年より7日程遅く生産が始まりました。芽数が少なく、圃場ごとの生育差や同一圃場内でも生育差があり、4月下旬頃までは反収の少ない状況が続きました。5月に入り気温が上昇し降雨が増えると反収は徐々に増加しましたが、硬葉化したものなど品質が低下したのが見られるようになりました。取扱数量は、4月末から増え始めGW終盤には5万kg台の日が続き最盛期となりました。

取引状況は、新型コロナウイルス感染症が治まり人々の経済活動や社会活動が回復しコロナ以前のような状況での取引となりました。度重なる値上げにより物価が上昇し消費者の購買意欲が上がらず、飲料消費の多様化により消費地からの引き合いが弱く高価格帯の動きも鈍く買手は慎重な姿勢での仕入れとなりました。繰り越し在庫量は多く、需要の低迷・減少により買手は品質重視の選択買いや必要買いに終始し小口買いが多くなりました。5月に入ってから小口買いが多く中山間地や山間地の引き合いはありましたが、ドリンク原料の需要が少なく、大手は契約仕入れが増え通常の仕入れを控えたこともあり、大口の荷口は販売までに時間を要し単価は下がりました。気温上昇および降雨により摘採遅れとなり硬葉化したものは、厳しい値押しとなり下値は近年稀に見る安値となった工場もあり平均単価は1割ほど安くなりました。早めの摘採や品質重視の生産、芽数の少なさやバラツキのある生育による収量の減少、摘採遅れによる収量の増加など地域や工場間によって生産量に差があります。昨年で閉めた工場や単価安により生産を中止した工場もあり、取扱数量は少なくなりました。